

朝日新聞

25年前の「一家全滅」 世田谷4人殺害事件 94歳の遺族の日記

有料記事

藤田大道 2025年12月14日 6時00分



宮澤節子さんが書きためてきた日記=宙の会提供

2024年8月、大リーグ・ドジャースの大谷翔平選手が、史上6人目となるシーズン40本塁打40盗塁を記録した。

その翌々日、同じ岩手県出身の女性（94）は、数十年の日課としている日記にこうつづった。

「大谷さんホームラン40盗塁40になる 岩手では大喜びでしょうね。あっぱれあっぱれと応援です」

同郷人の活躍を喜ぶありふれた日常。だが、その日記には、悲痛な思いもたくさん記されている。

「この頃あちこち痛くなっている。死ねない理由もあるし困ります。もう少し頑張らせてください」（24年5月30日）

90歳を超えた女性をここまで追い込む理由は25年前にさかのぼる。

日本人選手の活躍で沸いたシドニー・オリンピックと同じ年の暮れ。その女性、宮澤節子さんの日記には、17文字が刻まれていた。

「『一家全滅』との知らせ 信じられないまま」

世田谷一家殺害事件。会社員の宮澤みきおさん（当時44）、妻の泰子さん（同41）、長女のにいなさん（同8）、長男の礼君（同6）が、東京都世田谷区の自宅で殺害されていた。みきおさんは節子さんの息子だった。

00年12月31日に発覚し、犯人は今も逮捕されていない。

一家4人を亡くした遺族の宮澤節子さんがつづった日記から、未解決の25年間を振り返ります。

もともと、日記を記す習慣があった。だが、事件から数カ月は、書けない日もあった。



右上から反時計回りに宮澤みきおさん(当時44)、妻泰子さん（同41）、長女にいなさん（同8）、長男礼君（同6）=遺族提供
[写真]

「墓参り。お花がたくさん供えられてあり、とてもありがたく思うと共に悲しくもなってしまった」（01年8月16日）

「一周忌 親戚の方 お参りに来てくれる」（01年12月30日）

事件後、一変した生活

02年には、容疑者逮捕につながる有力な情報提供者に200万円の私的懸賞金（当時）を出すことに。生活費や貯金を切り崩して用立てた。

「藁（わら）をもつかむ思いで情報を提供していただきたい」（9月12日）

それでも犯人は捕まらなかった。

「生涯で一番悲しい地獄を見た時から丸3年。空元気ですごして耐えて来た3年だったと思う」（03年12月31日）

事件後、毎日深夜0時まで起きているようになったという。日付が変わると、冷蔵庫に貼ったカレンダーの日付に、斜線を刻んだ。



冷蔵庫に貼られたカレンダー。宮澤節子さんは毎日、寝る前に斜線を引いている=2023年12月11日午後4時1分、さいたま市浦和区、長妻昭明撮影

家族4人を一夜で失った悲しみと無念は深まっていった。自宅を訪れた警視庁の捜査員に思いをぶつけたこともある。

「今まで人に言えなかったことをいろいろと話す。悔しさが出たのかもしれない」（04年12月20日）

事件で亡くなった、にいなさんの同級生が小学校の卒業を迎えた時には「すごくさびしく涙を流してしまう。生きていてほしかった、死んではだめ…どうしようもない…」（05年3月24日）。

事件発覚からちょうど6年の日には「一人でもなんとか助からなかったのか…生きてもつらい・つらい…」（06年12月31日）。



箱の中に大切にしまってある孫にいなさんが書いた手紙などを見つめる宮澤節子さん=2010年12月21日、さいたま市浦和区
[写真]

それでも、公訴時効の撤廃に向けて、声を上げ始めた。元警視庁警察官の働きかけが力になった。

「時効について、世に訴えて欲しいということである。一番そう願うのは私たちです」（08年7月4日）

翌年、殺人事件遺族でつくる「宙（そら）の会」を結成した。「皆さんにお願いして頑張ろうと思う」（09年2月28日）

10年4月27日、刑事訴訟法が改正され、25年だった殺人罪などの時効が撤廃された。

遺族が苦しみを分かち合える宙の会はその後、「泣ける場所であり、笑える場所」（14年3月1日）になっていった。

夫の死去後も「自首して」訴え続ける

事件後、支え合った夫の良行さんは、12年に病気で亡くなった。この頃から、事件発生日などに報道各社の取材を受ける機会が増えていった。

「インタビューされてオタオタする。早くこの状態が終わることが出来るといいなあ～と願う。それは解決すること…お父さん助けてください」（12年12月22日）

12年12月、一家の墓参り終了後、当時の取材に「(犯人に)なるべく自分で名乗り出ほしいが、望めないことかなあと思います」と話した。

その後も毎年のように「自首してほしい」と節目の取材に訴えた。

夫の良行さんも亡くなり、いまは1人で暮らす。

60回目の結婚記念日には「お祝いできず残念に思う。墓守だけに生きる結果になってしまい さびしい限りだ」（15年2月3日）。

「いろいろみんなのいた頃のことを考えて悲しくなって泣きたくなってしまう」（18年11月10日）



殺害された4人のお墓の前で手を合わせる宮澤節子さん=2023年12月30日午前11時6分、埼玉県新座市、代表撮影

20年ごろからは、事件解決が見通せないもどかしさや焦りが色濃くなってくる。

「晴れ、何を目的に20年間生きて来たのかわからなくなる時もある。何の変化も無しで一日一日を送る有様（ありさま）で残念です」（20年11月10日）

「墓参りも一人では行けなくなってしまいました。悔しくて悔しくて仕方無いのです」（23年9月23日）

事件に関する一般からの情報提供は、計1万5千件近くに上る。近年は、件数があまり増えていない。

「早く何とかならないかな。捜査はどうなっているのかな」（24年2月10日）

24年は、高齢を理由に、年末に例年参加していた墓参りを欠席した。その年の日記の最後は、こうしめくくっていた。「一人でさびしいけど何としても解決の手がかりだけでも見つかるまで頑張りたいと思っています」（24年12月31日）

礼君は、大谷選手と同学年だった。この年、生きていれば30歳になっているはずだった。



殺害された4人のお墓の前で手を合わせる宮澤節子さん=2023年12月30日、埼玉県新座市、代表撮影



宮澤さんの日記は、本人の許可を得て、「宙の会」が捜査情報などに関わる部分を除き、抜粋したものについて提供を受けた。事件発生以降の約130日分で、文字数は約9200字にのぼる。

事件は、00年12月31日、世田谷区上祖師谷3丁目の住宅で、この家に住む会社員の宮澤みきおさん（当時44）と妻泰子さん（同41）、長女にいなさん（同8）、長男礼君（同6）が殺害されているのを親族が見つけた。現場には血痕や衣服が残され、犯人は血液型がA型の比較的若い男とみられている。

警視庁は、これまでにのべ29万人の捜査員を投入してきた。未解決のまま、まもなく25年を迎える。

宮澤節子さんの25年の日記

2000年	12月31日	※帰省先から※急遽埼玉へ（一家全滅）との知らせ信じられないまま
2001年	1月1日	明け方埼玉へ着 どうしようもなし
2003年	3月1日	警察の方3人見える。まだ進展がなくてとのこと、情報提供は400件以上あったとのことだが確認につながるようなのは無いとのこと。目的が絞れないことが事件を難しくしているとのこと。
2003年	12月31日	生涯で一番悲しい地獄を見た時から丸3年。空元気ですごして耐えて来た3年だったと思う。どうしたいいのか考えられないし、自分が出て行くのも精神的にこわいものがある。
2005年	12月31日	一日掃除、主なところ早くしておいたのでよかった～事件から5年後の静かな一日
2006年	12月30日	にいなの友達からお花届く。放送されると皆さん思い出して心配して下さり申し訳なく思う、皆さん大きくなつたでしょうね。 残念・残念と思う
2006年	12月31日	一人でもなんとかと助からなかったのか・・・涙にくれる。なんでなくとも涙の毎日なのに、一層深くたまらなくなる。生きていても つらい・つらい・・・
2009年	2月28日	宙の会結成。明大の講堂にて、正会員23名、賛助会員30名。取材陣びっくりする。集まりに出席すると頭の中が真っ白になってしまふ。皆さんにお願いして頑張ろうと思う
2010年	9月15日	刑事さん4人、返還品を持って見える。いろいろ見てあらためて思い出すことばかりがまんがまん 捜査に協力と思って耐えること。
2012年	12月31日	刑事さんから電話～今年も思いが叶えられず申し訳なかったと～昨日も情報提供の呼びかけをしてくれるなど、あらゆる努力をしているのに不思議に思う。
2015年	1月30日	一人でいると何から何まで世話にならなければならないなど どうしたものかと不安ばかりになる。ピンピンこりと行きたいと思うばかり
2015年	4月30日	にいなの23歳の誕生日、どんな子に成長していたかを考えるとあらためて悲しくなってしまう。Mさんら二人の刑事さんと墓参りをする
2016年	2月27日	宙の会7回総会肃々とする。二次会はマスコミ発表、その後宇の会メンバーでカラオケ屋さんにて苦労落としをする。皆さん心開いて楽しい時間を過ごす。
2017年	12月31日	事件から17年何の変化もなく進歩もなく足踏み状態なのが残念でならない。私の生きている間に何とかならないかと願うばかりです。自首以外ないのかと心から望むのみです。
2018年	12月16日	囲み取材が一番苦手、18年間なんの進歩変化もないのだから答えは同じ、私の元気なうちに何故の解決だけでも祈るのみです。

2020年	3月28日	コロナ禍で外出自粛になって家に居るのと、普通に家に居るのとでは、なんとなく自由のなさを感じられない気持ちになってしまう。不思議ですね。早く解決するといいですね
2020年	7月17日	表面はつとめて平静にと思い過ごしておりますが、毎日一人で夜になつたりすると悲しくさびしくなってしまいます。泣きたくなります。泣きます。

Made with Flourish • Create a table

朝日新聞のデジタル版に掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.